

リ低氣壓ノ襲來セルアリタリ、此レ數日前ヨリ遠キ沖合ニ低氣壓有リテ、時下タルガ爲ナルベシ、要スルニ微動計ヲ以テ脈動ヲ觀測スレバ、暴風雨ノ襲來ヲ豫知スルコト、晴雨計ヨリ早キコトモ有レバ、臺灣ノ如キ島地、殊ニ臺東ノ如キ海岸地ニ於テ精密ニ微動計觀測ヲ施行スルハ暴風警報上ニモ有益ナリト思ハル

脈動ト局部地震トノ關係ヲ調査スルモ亦素ヨリ必要トスル所ナリ

## 第七編 明治三十七年中臺灣全島

### ノ地震分布

七九 從來臺灣島ノ地震觀測ハ臺北、臺中、臺南、臺東、澎湖島、恒春、基隆等ノ測候所ニ於テノミ施行シタルヲ以テ、單ニ主トシテ此等測候所附近ノ地ニ於ケル震數ヲ示スニ止マリ、全島地震分布ノ狀況ヲ知ルヲ得ザルヲ遺憾トセルガ、幸ニ臺北測候所ニテハ明治三十七年一月ヨリ全島内ニ前記測候所ト共ニ合計七十六ヶ所ノ雨量觀測所ヲ設置シ、各所ヨリ一ヶ月毎ニ日々ノ雨量、天氣等ヲ記載セル報告書ヲ送附セシムルノ方法トシ、其ノ報告書中地震ノ記事ヲモ挿入セルヲ以テ、

爰ニ始メテ本島地震分布ノ大體ヲ知ルヲ得ルニ至レリ諸雨量觀測所ニ於ケル地震ノ報告ハ、之ヲ集メテ編末ノ附録第二トセリ、次表ハ此ノ附録第二ヨリ編成セルモノニシテ、各地ニ於ケル明治三十七年中毎月並ニ全年ノ地震回數ヲ與フ、即チ全ク器械ニ依ラザル觀測ノ結果ニシテ、感覺アル地震ノ分布ヲ示スモノナリ。但シ次表ハ測候所觀測ヲ含有セズ、各測候所ニテ明治三十七年觀測セル地震數ヲ舉グレバ臺北ニ三十九回、基隆ニ三十四回、臺中ニ二十七回、臺南ニ八十一回、臺東ニ二十回、澎湖島ニ二十回、恒春ニ六回ニシテ、恒春ノ數ノミハ全ク器械ニ依ラザル觀測ノ結果ナリ

明治三十七年 臺灣各地地震月別回數

地 名	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	合 計
宜蘭廳天送埤				1					1		1	2	5
宜蘭廳宜蘭										1		3	4
基隆廳鼻頭角													—
基隆廳社寮島													—
基隆廳火號庄													—
基隆廳暖々街		1											1
基隆廳金包里													—
臺北廳富基角													—
基隆廳石底		1		1				1	1	1	2	1	8
深坑廳坪林尾									1				1
深坑廳石碇													—
深坑廳屈尺													—
臺北廳頂內埔	1	2		1	1	1			1	1	1		9
臺北廳臺北													—
臺北廳淡水													—
桃仔園廳龜崙口													—
桃仔園廳三角湧									1				1
桃仔園廳白沙岬												2	2
新竹廳太湖口											1		1
桃仔園廳成榮礁									1		1		2
新竹廳內灣	1	1		1	1				3		2	2	11
新竹廳樹杞林	1	1		1	1						2	1	7
新竹廳新竹				1					1				2
新竹廳南庄													—
苗栗廳苗栗			1	1					1		1		4
苗栗廳太湖											1		1
苗栗廳罩蘭											1		1
苗栗廳後里				1							1		2
臺中廳臺中													—
臺中廳水底寮											3		3
南投廳北港溪											1		1
南投廳埔里社			1	1							2		4
南投廳南投				2			1		1		3	2	9
彰化廳社頭				1					2		3		6
彰化廳蘆竹塘				1							3	1	5
南投廳集々				1							2		3
斗六廳牛輻輳	1		2	1	1						3		8
斗六廳小半尺				1					1		1		3
斗六廳林內				1	2				1		9	1	15

明治三十七年 臺灣各地地震月別回數 (續)

地名	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	合計
斗六廳土庫				1	1				1		6	4	13
嘉義廳生毛樹				1					1		4		6
嘉義廳竹頭崎				1							2		3
嘉義廳嘉義				1	1		1		2		14	6	25
嘉義廳達邦社				1							1		2
嘉義廳公田		1		1							1	2	5
鹽水港廳鹽水港				1	1				2		2		6
鹽水港廳前大埔				1					1		8	5	15
嘉義廳後大埔		1		1	1		1		2		2		8
臺南廳礁吧啤	1			2	3				1		5		12
蕃薯寮廳阿里關		1		2					2		2		7
蕃薯寮廳上老濃									1		1	1	3
臺南廳南庄		1		4	3			1	1		3	2	15
臺南廳臺南													—
臺南廳灣崎				3	5				1		3	1	13
蕃薯寮廳蕃薯寮				3	6				1		2	2	14
蕃薯寮廳新威				1		1				1		1	4
鳳山廳深水				1	1				1		1	1	5
阿猴廳阿猴				1	1				1		1	2	6
鳳山廳鳳山				1					1		2	2	6
鳳山廳打狗													—
阿猴廳赤山				1					1				2
阿猴廳東港				1	1				1				3
恒春廳內仔頭													—
恒春廳枋鑾山													—
恒春廳恒春													—
恒春廳鑾鼻	4	0	1	3	2	6	1	4	3	2	1	3	30
恒春廳九棚						1				1			2
恒春廳牡丹社													—
臺東廳巴里衛													—
臺東廳臺東													—
臺東廳成廣灣			1	1		3		4	1				10
臺東廳璞石閣									1		1	1	3
臺東廳稜仔庄		1		7	1						3	4	16
臺東廳花蓮港	2		1								1	5	9
澎湖廳澎湖島													—
澎湖廳漁翁島													—

第五十四號 臺灣地震調查一斑

八〇 第三十圖ハ前表ニ基キテ、試ミニ調製セル、明治三十年中ノ臺灣ノ地震分布圖ナルガ、其ノ材料モ僅ニ一ケ年ノ報告ニ基クモノナレバ、極メテ大體ノ結果ニシテ今後數年ヲ經テ再ビ分布圖ヲ調製スレバ、或ハ多少顯著ナル點ニ於テ相違ヲ來タスマモ知ルベカラズト雖トモ、今日迄ノ所ニテハ此ノ外ニ材料トスベキモノ無ケレバ、暫ク第三十圖ニ依ルニ、本島中地震ヲ多ク感ズル主ナル地方ハ左ノ如シ

(甲) 社頭、斗六附近ヨリ南方蕃薯寮附近ニ亘ル地帯

(乙) 宜蘭附近

(丙) 花蓮港附近ヨリ成廣澳附近ニ至ル東海岸ノ地帯

(丁) 島ノ極南端ナル鶯鑾鼻附近ノ小局部

第三十圖ハ地震ヲ感ズル多寡ニ依リテ造レル圖ナレバ、必ずシモ震原地點ノ分布ヲ示スモノニ非レドモ、大體ニ於テ(甲)ハ本島南西部ニ於ケル地震ノ發起帶ヲ示スモノナルベシ(次編地震震動區域圖ノ條參照)

(乙)、(丙)、(丁)ノ三地方ニ至リテハ、恐クハ震原地自己ノ位置ヲ示スニ非ズシテ、單ニ多數地震ノ震動區域ヲ示スモノナルガ如シ、即チ此等ノ地方ヲ震動スル地震ノ起原ハ、東方ノ海底ニ存スルモノナルベシ、且ツ(乙)、(丙)、(丁)ハ相連結スル一帯ヲ成スモノナルベシ、之ニ依リテ判スルニ東方海

中ノ震原地帯ハ大體島ノ長軸ニ並行スルモノナルベシ、而シテ又(甲)地帯モ粗ボ北東北、南西南ノ方向ヲ有シテ、島ノ長軸ト平行スルノミナラズ、(甲)地帯ノ軸ヲ北東北ノ方向ニ延長スレバ、恰モ樹圮林、臺北附近並ニ島ノ西北端、白沙岬附近ノ小局部地震中心地ヲ通過スルコトナル

### 第八編 明治三十七中地震ノ分布(續)

#### 顯著地震ノ震動區域

八一 第三十一圖乃至第三十七圖ハ、附錄第二ニ基キテ調製セル、明治三十七年中ノ顯著ナル地震ノ震動區域ノ略圖ニシテ、左ノ如シ(明治三十七年兩回大震ノ震動區域圖ニ就キテハ後編ニ別ニ論述ス)

- (1) 明治三十七年 五月 二日午後五時ノ輕震
- (2) 同 九月廿八日午後一時ノ強震
- (3) 同 十一月 六日午前六時ノ輕震
- (4) 同 十一月廿八日午前八時ノ微震
- (5) 同 十一月廿二日午後二時ノ輕震
- (6) 同 十一月廿九日午後九時ノ輕震
- (7) 同 九月 七日午後九時ノ地震